

是ヲ以テ屢次中央ト接衝ノ結果兵力

ノ劃期的増強特ニハレンバン^{ハレンバン}製衣油地帯

防空ノ充實ヲ図ルト共ニ凡有防正施策

ノ強化刷新ニ邁進^{邁進}スルナリ

其二 緬甸方面作戰概況

井ウ號作戰(カンパール^{カンパール}作戰)準備命令下達

ニ至ル迄ノ経緯ノ概西々

1. 緬甸ノ地位ニ関スル南方軍ノ見解

12

陸軍

資源要域ノ確保ノ為ニ第八方面軍

ノ健斗ニ依リ敵ノ進攻企図ヲ成ルヘク東方

ニ封殺スルト共ニ緬甸ヲ^{（南方軍地）}羽翼ノ據矣

トシテ堅固ニ保持シ得ルノ態勢ヲ

速カニ整ヘントスルニ在リ

緬甸方面軍ノ見解モ亦其ノ軌ヲ一ニス

2. 第十五軍ノ五月頃ニ於ケル作戰構想

陸軍

第十五軍ハ緬甸進攻當時ノ作戰思想
ヨリ未タ脱却シ抑サス英印軍ノ戦力ヲ過ス
評價シ一ヶ師団ヲ以テ「ロード」公路方面ヨリ
一ヶ師団ヲ以テ「インパール」方面ヨリ先ツ
アッサム州中央高地（「シルガート」南方）ニ進
出シ次テ「プロマプロトラ」東域ヲ略守シ
政謀略ヲ併用シテ印度ノ独立ヲ策

10

陸軍

スルニ如カストナセリ

第十五号

3. 在在対スル南方軍ノ指導

帝国戦力ノ推移、東亞戦局ノ現況ハ

不戦功自子ニ多ク包合スル形而上

危険多キ奔放ナル作戦ノ實現施ヲ許サス

事ヲ彼我ハ、~~實力~~ヲ具サニ検討シ確實

ナル勝算ヲ確認シタル後、實現行ニ移ス

ヘキナリ之カ為方面軍ニ於テ成ルヘク速

15

陸軍

カニ兵棋研究ヲ實施シ具體的方策

ヲ樹立スヘシトナセリ

通句

4. 方面軍ノ指導

進攻確定

方面軍ハ南方軍ノ指導ニ其全ク慎重案

ヲ以テ第五軍ヲ指導セルカ第五軍

ハ積極進攻案ヲ強調スルニ切カニ

司令官半田中將ハ進取企圖ヲ閉スル

南詔ヲ圍拵シテ之ヲ讓スルニ向軍

軍間相當紛糾續下

南方軍ノ兵棋研究

(十八年 月)

方面軍ハ兩期明後ノ作戰特ニイニル

作戰研究ハ為六月末中央主作者南方

之作者

軍臨席ノ下ニ兵棋研究ヲ實施セリ

其ノ結果ヲ要約スレハ左ノ如シ

1. アッサム州中心部ニ向フ進攻ハ

夢想ニ属ス我兵力五午後ノ確保法續ノ
觀望ニ旋テ返望ナリ

只、イニハノルニ亦戰ハ防衛態ハ勢ヲ強固ナラ

ニ學如專心ノミナラス或

ニムル者其編セル國民士氣振

興ノ為ニモ實施スルコト西オス

然レトモ之カ實現ノ為ニハ方面軍ニ

對シ更ニ兵力トモ三ヶ師団、自動車

車トモ平輜、彈薬トモ四師団会致

實地調査其準備状況見示

南方軍司令部指示

6. 藤田総参謀副長、上京連絡

藤田総参謀副長ハ七月中旬上京

大本營ニ到リ

参謀本及陸軍省首脳部ニ對シ

南方軍ノ現勢ヲ委細報出スルト

共ニ

陸軍

緬甸方面ニ於テ攻勢ヲ採ルノ必要

ニ於テ新(作戦)

ヲ力説シ之カ準備毎實施ニ関シ

諒解ヲ得タリ

尚右實施ニ必要ナル部隊(15D, 5AD, 24MB)

工編部(同) 野輸(下) 其他)ノ派遣、彈藥(四師団會戰分)

自動車部品(二千輛分)ノ輸送交付ニ

就テモ諒解ヲ得タリ

21

三
程
用
別
隊

久留号作戰進十備命令下達

陸
軍

方面軍及第十五軍ヨリ兩期明ノ迫レル

今日インパール作戰ニ関スル南方軍ノ

明確ナル指示ヲ速カニ得度旨層々

督促アリ然レトモ印度洋方面ニ於ケル

敵ノ攻勢氣運擡頭ノ情勢ニ鑑ミ

該方面ノ手當コト慎重ニ考慮スル

1638

22

別隊

陸軍

要アル為南方軍トシテモ一應研究スル

要アルヲ認メ兵棋ヨ行ヒタル結果左ノ
南方軍自ラ其必要ニ依リ研究ノ

結論ニ達セリ

敵海軍兵力特ニ航空兵力ク不十分

ナル現況ニ鑑ミ印度洋方面ヨリ

直接馬來本土迄ニスマトラニ

反抗シ來ル公算ハ甚キモ敵ハ

1639

陸軍

陸正面ト共ニ海正面（特にバセイン）地区

或ハフランクーン地区ニ進攻シ来ルコトヲ

考慮スルノ要ナルコト

從テインパール攻勢ニ使用スル兵力

ハ右應急防上措置ニ遺憾ナカラ

シムルト共ニ隨時一部転用シ得ルコトヲ

願慮スルノ要ナルコト

24

陸軍

只兵力及後方資材の編制に投入

八月末頃迄終了スハシト推測

シ得ルモ敵爆撃の激化、交通ノ

硬塞、雨季ノ妨碍等ノ為不測

ノ遲滞ヲ見ル、算多キヲ以テ

作戦ノ實現施ハ尚南方軍ニ於テ

保留シ準備進捗状況ヲ勘案

25

陸軍

シテ命令スル、要アリトシ

現在尚

ハ、第十五軍ハ作戦思想ハ

劣弱軍作戦

那事変型乃至大東亜戦争時戦

思想

型ヲ脱却シ、^{能ハ}不西懸奔放ナル

型式

殲滅戦ヲ希求スルノ餘リ後方

関係ヲ輕視シ動モスレハ觀念的

ニ過リ多大ノ危険性ヲ包蔵スルモノアル

1642

防正強化ノ目的ヲ明示スルト共ニ

陸軍

ヲ必テ方面軍ヲシテ特ニ具體的ニ

防衛強化ノ目的ヲカシ

慎重ナル指道ヲ加ヘシムルノ要アリ

ニ、~~總~~軍トシテハ大綱、ミヨ示シ権威マル

方面軍ニ自由裁量ノ餘地ヲ多ク

レムルコトハ勿論ナルモ從來ノ經濟ニ

鑑ミ海^{兵力}正面防正、地勢、輸送力等

ニ、~~統~~日ヘ主攻勢正面ヲ指定スルノ

27

有
之

右之基キ方種軍ト、古ノ有キ長ク遂ヤル後△

要ア
内表

茲ニ於テ方面軍高級參謀片倉表大佐

ヲ總軍ニ招致シ緬甸方面ノ狀況ヲ具ニ

聽知シタル後統軍ノ内々思ヲ傳ヘタル

處同參謀モ全然同意見ニシテ總軍

ノ配慮ニ深厚ナル謝意ヲ表シ極メテ

満足ナル態度ヲ以テ歸還セリ

陸軍

28

陸軍

依[△]五月五日頃左記要旨、準備命令

下達

ヤミヤミ

申渡^レセリ

南方軍命令要旨

左記

一、方面軍ハ別紙要綱ニ基キ作戦ヲ

準備スヘシ

左記

別紙

一、方面軍ハ防正強化ノ為メハ

1645

29

陸軍

方面ニ攻勢ヲ採リ尔他ニ正面ニ於テハ

持久ヲ策ス

本作戦ヲ自今カ号作战ト呼称ス

註カ号作战ハ雲南作战

カ号
有ク

ト誤記セシムル含ミヲ以テ

指名セラル

ニカ号作战ハ準備完了ニ伴ヒ自主的

1646

陸軍

ニ實施ス主攻勢正面ハチンドワン河

西方地区トス

攻勢發起ノ時期ハ十月以降ト豫定

スルモ別命ス

三、敵若シ我ニ先チ攻勢ニ轉シ來ル場合

ニ於テハ概ネ攻勢準備ノ位置ニ於テ

之ヲ數手推シ引キ續キバール方面

81

陸軍

要線ニ進出ス

我ウノ号外戦(海軍)ニ先ケ

三、敵若シ海正面ニ主反攻ヲ實施スル

ニ於テハウノ号外戦ヲ中止シ該方面ニ

方面軍主力ヲ集中シ先ツ之ヲ撃推

ス

右命令發セラル、ヤ方面軍迄軍ヨリ交ハル

衷心(衷心)長悦ト

謝ト共ニ死カヲ盡シテ~~決~~期待ニ副ハン

32

陸軍

コトヲ期スル旨返電アリ又ハテ當時

、緬甸方面軍ノ士氣ヲ窺知スルコ

足ルヘシ

ニ
ウ
号作戦進十備

上、兵力ノ増強

ウ
号作戦實施、為方面軍固有兵力

、他増強セシ兵力状況左ノ如シ

1649